

5 取組内容 SDGs達成に向けて・私たちにできること～郷土文化を守る～

活動① 猪苗代湖での清掃活動

8月7日、猪苗代湖の清掃活動と「ヒシの実」を用いた作品作りを行った。「猪苗代湖の自然を守る会」の方より、「ヒシの実」がもたらす猪苗代湖の水質汚染についてお話を伺い、「ヒシの実」の形を生かし「天狗」を作製した。天狗は地元の磐梯神社で「天狗」がまつられていることに由来している。その後、天神浜に移動し清掃活動を行い、「ヒシの実」を拾い学校へ持ち帰った。



今回の清掃と天狗作りをとおして、猪苗代湖の環境について知るとともに、かつては食用として親しまれていたが、今では駆除の対象となっている「ヒシの実」をいかに有効活用していけるのか、猪苗代湖における環境をいかに持続可能なものにしていけるのかについて考えた。

活動② ヒシの実から天狗を作ろう

9月28日、猪苗代湖の清掃活動に参加した生徒と、福島県民話「天狗のうちわ」の紙芝居を作成した生徒たちによって行われた。



まず、清掃活動に参加した生徒より、「ヒシの実」が猪苗代湖に及ぼしている影響についてプレゼンテーションが行い、その後、全員で天狗作りを行った。

活動③ 震災復興スタディーツアー

10月1日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問した際、図書委員が作成した双葉地区に残る昔話「与四郎とカッパ」の紙芝居を贈呈した。その後、帰還困難区域を見学したり、語り部の話を聴いたりすることで、複合災害の記憶と教訓を継承し、復興・防災・地域産業への理解を深めた。また、地域の伝統や伝承などが風化していく危機に直面していることから、紙芝居を作る作業をとおして、地域の伝統・伝承を守っていくことの大切さを再認識した。



活動④ 地球温暖化最前線国 キリバス共和国について学ぶ

11月6日、校内で行われた国際理解・交流発表会において、「国連による『持続可能な開発目標 (SDGs)』から考える～私たちにできること～ だれ一人取り残さないために＝僕の国キリバスからのメッセージ＝」と題し、日本キリバス協会代表理事であるケンタロ・オノ氏による講演を開催した。キリバス共和国は地球温暖化による海面上昇で国が沈んでしまう危機に直面しており、その現状を聞くと共に、国が消滅するという事は人々の思い出の場所がなくなり、人の心も壊してしまうというお話を伺い、地球温暖化がコミュニティや文化に及ぼす影響を知ること

ができた。

講演会に先立ち、オノ氏への感謝として、「フラ・タヒチアンダンス同好会」がフラダンスを披露した。また、生徒が作成した「キリバス創生物語」の紙芝居を演劇部が披露した。その後、キリバスの人々のお土産として、作成した紙芝居と「ヒシの実」で作った天狗をオノ氏に贈呈した。



活動⑤ 福島県の特産品を使った和菓子の開発

2020 オリンピックカラーをイメージし五色餡入りのオムレット（和夢レット）を開発した。

【生地材料】

福島県産の生乳から作られている「酪王牛乳」
郡山産「あさか舞」の米粉

【餡材料】

五輪カラーを、福島県内で収穫された物産品を用いて表現した。

青) 猪苗代湖から郡山に流れ来る水しぶきを青い錦玉で表現し、一本の水路を白餡で見立てた「安積疏水」味

黒) 黒餡は“へその町”本宮産の「小豆」味

赤) 甘い桃の果肉が入った赤餡は福島県代表の「桃」味

黄) 黄餡は郡山産の「かぼちゃ」味

緑) 郡山産の“グリーンズィート”が入った緑餡は「枝豆」味



6 主な成果

●活動①②より

猪苗代湖で駆除されているヒシの実は、かつては人々と共生していた。そのことを踏まえ、持続可能という観点から、猪苗代湖に生息する動植物の多様性を理解させ、ヒシの実を、猪苗代湖を汚す根源という形で駆除するのではなく、かつてのように共生させていくにはどうすればよいのかを考える機会となった。

●活動③④より

キリバス共和国の実情を知るとことで、自分たちがどのように気候変動に関わっ

	<p>ているのかを気づかせることができた。また、地域の消滅はコミュニティやその土地に伝わる文化の消失であり、その文化を残すことにどのように関われるのかを体験させることができた。帰還困難区域を訪れたことや震災を学習することで、キリバス共和国が置かれている状況と自分たちの故郷が置かれている状況を重ね合わせることができた。</p> <p>●活動⑤ コロナ禍の中で、オリンピック・パラリンピック開催のムードを高めていくことは大変であったが、地域の食材の素晴らしさを発見しながら楽しく行うことができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>今年度はコロナの影響により、例年行っていた留学生の来校や海外研修ができず、日本の伝統文化や地域について紹介する機会や、交流ができなかった。また、前期は講演会なども実施することができず、外部との接触がなかなかできない中で、毎日行っている部活動の中でできることや、校内でできることを活動の柱として、実践テーマに近づけるような活動にした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>この状況の中で、特別なことをするのではなく、通常の教育活動の中でできることがあるということを再認識することができた。直接オリパラの競技やアスリートに関わる内容ではなかったが、オリンピズムという観点から、活動を考えた。オリパラ開催の可否が議論になっている中で、あまりムードを高めることを控えながら行える活動にした。もう少し社会的なムードが高まり、コロナも沈静化すれば違った活動ができていたかもしれない。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピズムの理念を中心に、最終的には平和な社会を築くことのできる人材を育成するような活動を行っていきたい。</p>